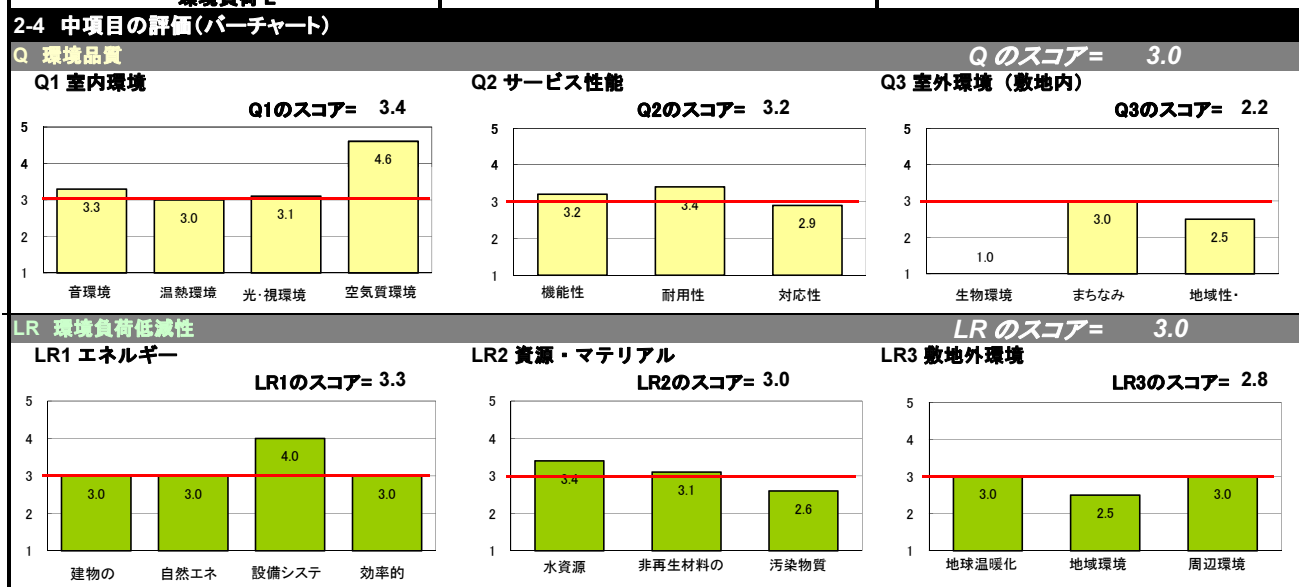
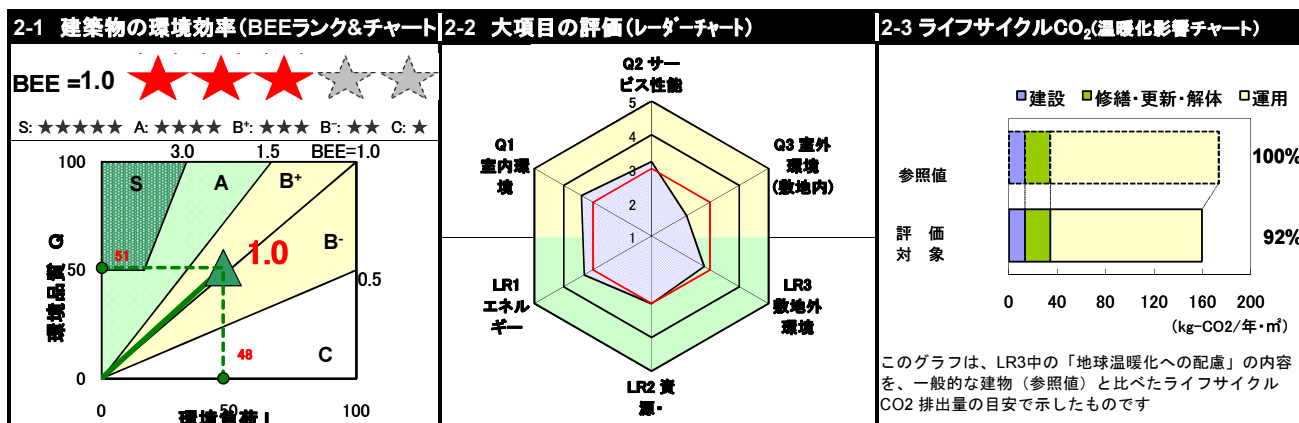


CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京都南病院	階数	地上6F、地下1F
建設地	京都府京都市下京区七条御所ノ内	構造	RC造
用途地域	商業地域、準工業地域、防火地域、	平均居住人員	102 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2010年12月 予定	評価の実施日	2009年11月5日
敷地面積	1,511 m ²	作成者	間組一級建築士事務所
建築面積	1,159 m ²	確認日	
延床面積	5,905 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
新病院は急性期医療センターと位置づけ、地域の中核病院として高度医療と24時間体制の救急医療を提供し地域医療のネットワークの拡充と構築に努める。	0	
Q1 室内環境 急性期の患者に対し、自然採光と通風が確保されるよう多床室においても1床当たり1カ所の窓が確保できるよう配慮した。また、就寝時間の音(騒音)に対しても配慮して計画した。	Q2 サービス性能 院内感染防止と患者搬送や物品搬送時に想定される床・壁面や出隅コーナー部分の汚染・破損等に考慮しつつ、入院患者に安らぎを感じられる空間を目指した。	Q3 室外環境(敷地内) 病院機能が損なわれない空間計画とするため狭い敷地の効率的利用を図る一方、都市部の急性期病院として高機能救急車の寄付きなど敷地内に確保した。また、地域の街並みに配慮し京都市景観条例に基づいて計画した。
LR1 エネルギー ライフサイクルや省エネを考慮し、効率的な設備機器の使用を努める。	LR2 資源・マテリアル 構造は純ラーメン構造とし、間仕切のLGS化を進めることで将来の改修にも考慮した。化学物質は、竣工前に濃度測定を行い基準値以下であることを確認する	LR3 敷地外環境 騒音・振動・悪臭は、法規法令の基準を満足する計画とする

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される